

# 進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	理工学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高次連携に配慮した教育内容(学部)

## II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

### 【現状の説明】

#### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 体系的なカリキュラムについて、大学院委員会で検討し、2013年度までにカリキュラムを改訂する。	→大学院委員会の開催回数、各年度に提示されるカリキュラム。	C
2. 他の研究機関や大学との大学院連携を強化し、専門教育の充実を図るために、相互セミナーの開催や共同研究を行う。	→それぞれ連携先に行った学生の人数、学生の研究成果(学会発表や論文発表件数)、相互セミナーや共同研究の件数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

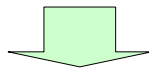
### 《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針) 必要な授業科目の開設状況を調査し、順次性のある授業科目の体系的配置を行い、コースワークとリサーチワークのバランスを意識した教育を行う。 (現状説明) 専門分野の拡大に伴い、講義の種類も増加した。しかし多様化に伴う順次性は確立されておらず今後検討していかなければならない。リサーチワークについては各専攻とも活発に行われた。2009年度は19件の国際学会発表、229件の学会誌・論文発表、9件の学内紀要発表があり、9件の学会賞を受賞している。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明) 2009年度も専門教育の充実をはかるため外部講師による25回の学術セミナーを開催した。リサーチワークの活性化のため2009年度は理化学研究所発生・再生科学総合研究センターに6名、SPring-8に10名、産業技術総合研究所に3名の学生が配属となり研究活動を行った。また兵庫医科大学との連携し学生派遣に向けて準備を開始した。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	



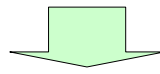
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	
★ 小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	理工学研究でありながら、知的財産論以外のMOT (Management of Technology) 関連科目が整備されていない。大学院検討委員会でこの分野を充実させるための意見交換が必要である。
--------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】  
 ○「目標」1および「現状説明」6.2.1について、評価項目6.1.2の「教育課程の編成・実施方針」が確定しないと体系的なカリキュラム編成は実現しがたいので、早急に「方針」を策定する必要があります。

【学内委員】  
 ○リサーチワークは活性化している状況がうかがえます。学位授与の方針に則ったコースワークの体系化が課題とのことですが、その実現が期待されます。また、自由記述にもあるように、弱みも理解されていると思われ、今後の対応が期待されます。  
 ○国際学会での発表や外部研究組織との共同研究などが積極的に行われ、具体的な成果が出ている点は大いに評価できます。ただ、専門分野の拡大のため、教育課程の体系的編成が必ずしもうまくいっていない点があり、その点を早い時期に修正することが求められます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし
------

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

<個別的な指標>
